

八戸市史だより

第 14 号

発行日 平成 23 年 1 月 5 日

八戸市史編纂室

民俗編 & 近現代資料編

八戸市史新刊発行！！

市史編纂室では、新編八戸市史『民俗編』、『近現代資料編』の2巻を発刊しました。

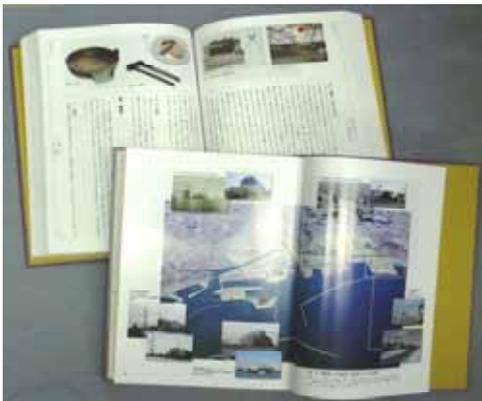
民俗編は、時とともに失われゆく市民の記憶と伝承を、記録に残すため、各地域で行った聞き取り調査を元にまとめあげました。文献資料のみでは見えてこない、八戸に生きた人々の生業（なりわい）、暮らし、年中行事、人生儀礼、信仰や芸能、民話・方言など、いわば日常の記録が凝縮されています。

写真も昭和 30、40 年代を中心に、八戸の町並みや風景、行事、生活の道具などをふんだんに掲載しているので、当時を知る世代には懐かしく、若い世代や子供達には新鮮に感じられる一冊になっています。

ご家族でこの本を開き、記憶や伝承を語り継いでいくきっかけとしたり、身近な地域の成り立ちや行事の由来などを調べる材料として、役立てていただけるものと思います。

近現代資料編は、昭和 30 年代から 60 年頃までの時代を対象として、昭和の大合併による市の拡大、新産業都市指定と臨海工業地帯の完成、チリ地震津波・十勝沖地震などの災害、さらにイカサバ紛争や 200 カイリ問題などで揺れた漁業・水産業の動向など、多岐に渡る資料と多くの八戸の叡智を紹介しました。まさに現在へと直結する時代の、今も記憶に残る出来事や人物が登場する一冊です。

新編八戸市史は両巻共に定価5,600円、B 5 版ハードカバー、外箱入りです。市内各書店、図書館市史編纂室、博物館にて発売中です。



黄色い外箱と南部紫に菱刺しをあしらった表紙が目印です。



各巻目次

民俗編 (定価 5,600円)

- 第 1 章 社会生活および生業 (ムラ・ハマ・マチ・その他)
- 第 2 章 暮らし (衣・食・住)
- 第 3 章 人生儀礼 (産育・婚姻・葬制)
- 第 4 章 年中行事 / 第 5 章 信仰 (八戸の民間信仰)
- 第 6 章 芸能・娯楽・遊技
- 第 7 章 口頭伝承 (民話・ことば・方言)

近現代資料編 (定価 5,600円)

- 第 1 章 八戸市の拡大と市政運営 / 第 2 章 生活と工夫
- 第 3 章 ひとづくりと社会活動 / 第 4 章 農林水産業の展開
- 第 5 章 臨海工業地帯の完成と商業圏の拡大
- 第 6 章 八戸の旗

ちょっと一息 (答えは裏面)

ミニ八戸市史検定

- (1) 八戸藩 9 代藩主信順はどこから婿入りしたか？
A. 仙台藩 B. 盛岡藩 C. 薩摩藩 D. 土佐藩
- (2) 昭和 4 年の市制施行時に八戸市に含まれていなかった地域は？
A. 小中野 B. 根城 C. 鮫 D. 類家
- (3) 八戸藩領に含まれていた寺社はどれでしょう？
A. 松館大慈寺 B. 櫛引八幡宮 C. 市川白髭神社 D. 豊崎七崎神社
- (4) 南部地方に伝わる民俗で正しくないものは？
A. メドツ (河童) の腕は引っ張ると抜けるといわれている。
B. そば"カッケ"の語源は「角形」または「かけら」といわれている。
C. 「稗飯に干菜汁」は医者殺しとされ、無病息災の元といわれている。
D. 赤子を初めて外出させるときは、額に墨で を書き魔除けにした。
- (5) 八戸で実際に発見されていない土偶は？
A. 頬被り土偶 B. 頬杖土偶
C. 遮光器土偶 D. 合掌土偶



部会短信

(平成22年4月～12月)

原始・古代・中世部会

「考古資料編」刊行後は、平成24年度刊行予定の「中世資料編」掲載史料の収集と内容検討を行ってきました。今年度は執筆の年のため、5名のうち4名が県外の委員にもかかわらず、部会会議6回、打合せ7回、調査2回と精力的に活動し、原稿の完成を目指しています。古文書の写真を多数掲載し、中世の八戸に思いを馳せることができる1冊になる予定です。また、集大成とも言える「通史編（原始・古代・中世）」も、編目案作成へと動き出しました。

近世部会

近世部会では、『近世資料編』の刊行に向け、校正作業を進めています。章によっては、3回目の校正に入っています。本巻は社会文化編として、資料写真や図形などもふんだんに使い、変化に富んだ一冊になっています。完成は23年春の予定です。これと並行して、いよいよ近世部会活動の集大成、『通史編』が執筆へと走り出しました。本市史編纂事業初の通史編のため、試行錯誤しながらの執筆ですが、市民に親しみやすく分かりやすい市史を目指しています。

近現代部会

近現代部会では、『近現代資料編』の最終巻として「戦争」「都市計画」という2つのテーマを取り上げ、2分冊での刊行を目指し、編集・校正作業に取り組んでいます。特に戦争編は、市民の皆様からお寄せいただいた手記や資料などを無駄にしないよう心がけ、編集作業を進めています。そして、『通史編』も来年度の執筆に向け、項目を固めつつあります。本市としては初めて手がける近現代の通史です。現在も、より良いものを目指し熱い議論が続けられています。

自然・民俗・文化財部会

民俗班は、市の公共機関としては初めての『民俗編』の刊行をしました。

文化財班は、来年度刊行の『(仮称)文化財編』の印刷に向けて、原稿の読み合わせ作業を月1回のペースで進めています。原稿内容の補足のため、現地踏査、藩境塚の確認調査などを実施しました。文化財編も民俗編と同様オールカラー印刷になります。目で楽しみ、本を片手に歩きたい。また、地元にいながら知らなかった八戸の良さがあらためてわかる・・・そんなガイドブックのような本が目標です。

編纂室
カレンダー
二十二年四月～十二月

5月～6/30 戦争体験手記の募集
8/4 中世班 盛岡市中央公民館所蔵南部家文書調査
8/29 近世部会 神社棟札等調査(新田八幡宮他)
9/6～9/8 古文書整理
10/17 文化財班 藩境塚調査
11/6 図書館講演会「南部八戸の城下町」
11/19～20 近世部会 東大史料編纂所、中里家(静岡)所蔵資料調査
12/8 市史編纂委員会(刊行計画の見直しについて)
12/18 中世班 神社棟札金石文等調査
12/21 市史編集委員会
(各部会の会議、細かな調査等は省略しました。)

ミニ検定の答え

- (1) C 薩摩藩
- (2) B 根城
- (3) A 松館大慈寺
- (4) D 本来は×印
- (5) A 頼被り土偶

発行・編集

八戸市史編纂室
〒031-0022
八戸市糠塚字下道2-1
電話&FAX 0178-73-3234



ふむふむ

是川縄文館マスコット
(名称未定)

カレンダーより

近現代資料編「戦争」に掲載するための体験手記を、広報はちのへや新聞等を通じて募集しました(現在は応募の受付は終了しています)。限られた応募期間だったにもかかわらず、多くの問い合わせやご応募、資料提供をいただき、ありがとうございました。

原始古代中世部会の中世班や、近世部会において、市内外の神社等の調査を数回にわたり行いました。修験にまつわる古文書や、近世以前の棟札等も発見され、実りある調査となりました。調査成果は、中世資料編や通史編へ生かされることとなります。